

さらなる進化へ

30th

総務部 広報課

ハイライト:

- 新生徒会の役員が決定しました。
- 受験者、大幅増加の中学入試でした。
- センター試験、全力で挑んだ25回生。
- WYSHの授業、とても有意義でした。
- APUコース、後期プレゼンが行われました。

第28期生徒会執行部 2012. 12. 13.

ANNIVERSARY

新年のご挨拶

理事長 成瀬輝一

新年のご挨拶 理事長 成瀬輝一	1
第28期生徒会の紹介 25年度岩田中高入試について	2
センター試験に出発 立川英季 三味線の授業開始 坂本文郎	3
特活より～部活の報告～ 特活主任 野村哲也	4
保健室より(WYSH)野村めぐみ APUプレゼン大会 沖 奈緒子	5
カウンセリングルームより スクールカウンセラー 林智一	6
生徒指導部より 生徒指導主任 阿部順三	7
寄付金募集のお知らせ	8

明けましておめでとうございます。

年始は四日から中学校の入学試験。二八一名という大勢の受験生を迎えた結果、合格最低点も高くなり、きびしい戦いとなりました。四月の新入生が楽しみです。八日は三学期の始業式。校長の訓辞が凜とした空気の中に響き、職員生徒一同、気持ちを新たに致しました。

昨年の岩田生は、全国高校生英語エッセイコンテストで最優秀賞や優秀賞を受賞。大分県英語ディベート大会でも優勝、あるいは英検一級に中学一年生が合格する等、大活躍。これらはメディアにも大きく取り上げられ、学園の名を大いに高めました。

また、今年度は岩田中高一貫三十周年。樟友会 同窓会 からは、昨年暮の合同新聞一面を、卒業生たちの名刺広告で埋め、お祝いをして戴きました。岩田ファミリーは多士済々、まさに岩田の教育方針「社会に有為な人材の育成」の証です。

送しいクスノキに囲まれ護られた学園で、この教育をゆつくりと着実に進めてまいります。冬のキャンパスにもいづれ春が訪れ、クスノキが芽吹き、美しい若葉でむせ返ります。教育は時間がかかります。岩田のモットーへゆつくり急げの實踐であります。

本年もよろしくお願ひ致します。

理事長 成瀬輝一





生徒会発足の紹介

昨年の11月14日(水)の生徒会長選挙、そして12月14日(金)の生徒会役員の認証式を経て、【第28期岩田学園生徒会】が正式に発足しました。生徒会長の中城くんを中心とした【第27期生徒会】では、「岩田学園創立30周年」という記念すべき年を飾るべく、それぞれが様々なアイデアを出し合い、全力で活動してきました。こうして多くの先輩が築いてきた伝統を「ツナグ」ため、そして新たなものを創り出せるよう、創立31年目を迎える岩田学園を、新生徒会長の津村くんを中心とした生徒会役員29名で全力で取り組んでいきたいと思ひます。

その新生徒会の活動として、さっそく昨年末から1月15日まで「かきそんじハガキの回収運動」を行っています。ご協力、どうぞよろしくお願ひいたします。

◆第27期生徒会長 中城 毅彦さん

生徒会顧問 川元威彦／宗 浩史

生徒会長を終えて、僕はいろいろな人の温かさを感じました。生徒会長になったばかりの時は、いつも空回りばかりしていて、生徒会のみんなに迷惑をかけていました。しかし、そんな時も生徒会のみんなは僕に優しく接してくれました。僕が悩んでいる時には、先生方が相談にのってくれたり、手助けしてくれることもありました。そして最大のイベントである30回目の学園祭でも、みんなの協力があって成功させることができました。これまでの先輩方が作り上げてきた伝統を受け継ぐことができ、とても光栄に思ひます。最後になりますが、僕が生徒会長になって感じたことがもう1つあります。それは「感謝」をするということです。僕は1年間、幾度となく周りの人に支えられてきました。直接伝えるのは少し恥ずかしいので、この場を借りて言わ

せていただきます。1年間、僕を支えてくれて本当にありがとうございました。

◆第28期生徒会長 津村 佳希さん

岩田生の代表としての自覚を持ち、一生懸命岩田学園のために尽力したいと思います。生徒会長になったばかりではありますが、先輩たちから代々受け継がれてきた伝統を引き継ぎ、さらに促進させるべく、新しいことにチャレンジしていこうと思ひます。これからどうぞよろしくお願ひいたします。

生徒会長	津村 佳希	
副会長	平野 雄士	得丸 奈央
庶務	岡田 将吾	平山 佳奈
体育委員会	正 首藤 侑恒	副 平川 ころろ
美化委員会	正 瀬戸 凜平	副 安倍 穂
広報委員会	正 林 理斗	副 藤原 圭太
図書委員会	正 花宮 大樹	副 沖田 優
文化委員会	正 内田 涼太	副 牧 空花
空き缶委員会	正 山口 敬太	副 日高 早紀
保健委員会	正 木村 まゆ	副 片岡 勇貴

平成25年度岩田中高入試について 事務局長 工藤紀次

平成25年度岩田中学校入学試験は、1月4日(金)に筆記試験、翌5日(土)に専願入試の面接を行いました。1月4日の入試は、大分県下の中学入試のトップということもあって、大分合同新聞社・西日本新聞社・大分放送・テレビ大分の取材がありました。

平成25年度の岩田中学校入学試験は、大幅な入試改革のもと実施されました。改革の第1番目として、25年度入学生から『医進クラス』と『文理特進クラス』が新設(平成27年度・中3次より)されること。中1・中2の2年間は、カリキュラムを変更して英語・数学・国語の時間数を増やし基礎固めをし、中学3年生になった時にクラス分けを実施します。2番目として、『推薦入試』を廃止し、『専願入試』としたこと。専願入試では、筆記試験・面接試験・自己推薦書等の総合評価の他、単一科目でも特筆すべき成績であった場合には、考慮することとしました。岩田プレテストや英検・漢検などの資格も考慮します。3番目として、『特待生制度』を導入したこと。一

般入試での合格者のうち、成績上位10%以内の順位のものには授業料の全額を免除、20%以内のものには授業料の半額を免除することとしました。また、入学後の年度末評点で上位10%以内のものにも全額、あるいは半額免除を適用することとしました。

『医進クラス』の設置には早い時期から反応があり、オープンスクール、プレテスト、入試説明会等の出席者も例年を上回る好状況でした。少子化が続く中で出願者が280名を超えたのは平成8年度入試以来のことで、実に17年振りということになりました。

志願者数は281名で、合格者数が187名でした。一般入試の合格者平均点は、どの教科も作成者の予想を上回る、非常に良い得点結果となりました。一般入試の合格者最低点は、210点と過去最高の点数となり、合格者の4教科平均点の合計は、実に246.5点となりました。

一方、高校入試は1月7日から推薦入試の願書受付が始まりました。岩田高等学校(APU・立命館コース)の推薦入試は1

月17日、一般・前期入試が2月3日、後期入試が3月20日に実施されます。

既に終了している帰国子女入試では、ニューデリーと上海の日本人学校から、それぞれ1名ずつの入学が決まっています。今後も県内外を始め海外日本人学校での広報活動を充実させる取り組みを続けていき、更なる入学者増へ繋げたいと考えております。また、岩田学園では男女の生徒寮を持っています。これは他校にない特徴的な施設であります。寮教育を再度見直してもらい取り組みも続けて行きたいと考えています。

【平成25年度中学入試結果】

中学校 受験者数

受験者数	281名
合格者数	187名

中学合格者平均点

国語	82.0点
算数	79.4点
理科	42.8点
社会	42.3点



高3(25回生)センター試験壮行会を行う。 高校3年学年主任 立川英季

1月18日(金)の3・4限に、翌日に迫ったセンター試験の壮行会が行われました。今年、25回生岩田コース101名が受験します。「がんばれ岩田」の横断幕や、OB・在校生からのメッセージが飾られた大講義室に、やや緊張した面持ちの高3生が並びました。

まず柳井校長より、「(受験勉強で)世間の出来事にうとくなつた事を誇りに思え!」「己の欲望に勝つことが克己心だ!」と熱い激励の言葉をいただきました。

その後、第29回学園祭体育大会で南北応援団長を勤めた南・高江両君が、ビシッと気合いの入った決意表明をしてくれました。

進路指導主任・学年主任からの話の後、験担ぎも兼ねた清掃をして、明日(7:30学校集合!)に備えて早帰りとなりました。2年続いた平均点上昇により、難化が予想されるセンター試験ですが、今までの努力で培った知識と自信、周りの人達への感謝、全てを力にして欲しいと思います。25回生の奮闘を祈りましょう!

★写真最下段:中1、2の激励メッセージ →



三味線の授業について

音楽科 坂本 文郎



●本校の取り組み

昨年12月21日を皮切りに、中学2年生対象に『三味線の実習』が始まりました。

特別講師としてお迎えした藤本流師範の荻本芳勝・園田公子両先生は、毎回和服を着こなして、お出でになります。

週1回、金曜日に中学2年生が履修しますが、その時は机・椅子を片付けて、正座をしての授業になります。初めての楽器に新鮮な楽しみもありますが、それ以上に行儀作法を教えて頂くことが、生徒たちの楽

しみになっている姿が印象的でした。

こうした授業を通して、生徒が伝統音楽のよさを味わうことができるように工夫していきたいと思っています。

また、教師が実際に生徒と一緒に三味線を学ぶ姿は、生徒に「自分も演奏してみたい」という気持ちを強く抱かせ、とても効果的であるとも感じています。



●和楽器の授業必修化の流れ

2008年3月に告示された学習指導要領改訂で、中学校音楽科では、「和楽器の指導については、3学年間で1種類以上の楽器の表現活動を通して、生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わうことができるよう工夫すること」と示されました。

本校では、中学校音楽科における和楽器の学習の一環として、三味線の演奏と鑑賞という活動を伝統音楽の学習につなげていく取り組みを行っています。



●中学女子テニス部

★大分県新人戦

- ・団体戦
岩田 1回戦 1-2 大東
- ・個人戦シングルス
2R進出 白石、高山、赤嶺

団体戦では、シングルの不戦勝で、1ポイント有利ではあったものの、いつもの力を発揮することができず、惜しくも「団体戦最低一勝！」という目標を達成することはできませんでした。個人戦では、いかにステップを踏み、ボールに食らいつくか！という部分がポイントになりました。次の試合までにたっぷり時間はあるので、この期間に少しでもパワーUPできるように努力を積み重ねていってほしいです。最後になりますが、足下の悪い中駆けつけて下さった保護者の皆様方、今後とも応援よろしくお願いたします。(顧問：真部)

●中学男子テニス部

★大分県新人戦

- ・団体戦
岩田 1回戦 3-0 宗近
2回戦 2-1 王子B
3回戦 1-2 別府青山
- ・個人戦シングルス
4R進出 大戸(バスト16)
3R進出 大森、岡部

団体戦では、1、2回戦とも、チーム内でアドバイスをしあうなど、仲間で協力して勝ち上がったという姿が印象的でした。3回戦目の別府青山は強豪校ということもあり、苦戦しましたが、あと一步で勝利というところまで戦うことができました。惜しくも決勝に進むことはできませんでしたが、県で3位という素晴らしい結果を収めることができました。個人戦では、1年生も1Rを突破するメンバーが増え、2年生は、安定して実力を出すようになってきました。夏休みや、これまでの練習に真面目に取り組んできた部員は、少

しずつその努力と結果が結びつきつつあるのではないのでしょうか。それぞれがさらに成長することを期待します。最後になりますが、悪天候の中応援に来て下さいました保護者の方々、有り難うございました。(顧問：真部)

●高校剣道部

★大分県高等学校新人剣道大会

- ・個人戦
高2 小手川太郎・神崎雄己 2回戦敗退
- ・団体戦
女子 1回戦 岩田2(2)-2(3)白杵
*本数負け
男子 1回戦 岩田3-2宇佐
2回戦 岩田2-3三重総合

女子は本数負けという僅差での敗退でした。最後まで諦めない気持ちで戦ってくれました。男子は強豪 三重総合に敗退。剣道の勝負は一瞬！その一瞬に勝つためには気迫も重要、精神面の強化も大きな課題として取り組んでいきます。保護者の方々には、連日の応援を有り難うございました。

★第16回将龍杯高校剣道大会

- ・団体戦
1回戦 岩田1-1東稜(熊本)代表戦負け
群馬・福井をはじめ全国から男子112校、女子85校参加の大会でしたが、残念ながら初戦 惜敗しました。前日の錬成会は午前・午後の練習試合で、強豪校との対戦を通して多くを学びました。この経験を今後学校生活に活かしてくれることを期待します。APU以外の高2はこれで全員が引退になります、学業面でも最後まで気概を示してくれることを願っています。

(顧問：阿部)

●中学男子バスケ部

★大分県中学生新人バスケットボール大会

- 1回戦 岩田 39-108 別府北部
6人という少ないメンバーで、県1位の強豪校を相手に臆することなく戦うことができ、とても良い経験をする事ができまし

た。今回の試合で見つかった個々の課題を克服し、さらに成長してくれることを期待しています。送迎や遠方からの応援など、保護者の方々には大変お世話になりました。(顧問：伏見)

●中学女子バスケ部

★大分県中学生新人バスケットボール大会

- 1回戦 岩田 39-65 白杵北
練習でやってきたことをみんなでやろうという意識が高く、接戦だった中体連新人戦よりはるかに成長・進歩が感じられた試合でした。通用したことを継続し、出来なかった部分を改善することで更なる進歩を期待しています。(顧問：野田)

●高校女子バスケ部

★県高等学校新人バスケットボール大会

- 1回戦 岩田 54-39 中津東
2回戦 岩田 29-135 明豊
試合の流れが掴めず、リズムに乗れない時間帯が多い中、気持ちを切らさずにプレーができました。うまくいかない時間帯が多い中でも勝ちきることができるのは一つの進歩。2回戦は自分達のバスケットが出来ず、非常に悔しい結果となりました。12月の大会に向け、課題を一つ一つ克服していきたいと思ひます。

★第43回全九州春季バスケットボール選手権大会 大分県予選

- 1回戦 岩田 88-36 三重総合
2回戦 岩田 28-117大分商業
1回戦は、DFが機能しリズムをつくることができ、全員得点の大勝でした。2回戦はプレッシャーをかけられ、ミスを重ね、大敗。非常に悔しい結果となりました。強豪相手に自分たちのバスケットが出来るよう、練習に取り組ませたいと思ひます。応援に来て下さった保護者の方々、先生、男子部員、中学生に感謝致します。(顧問：野田)

伝統の絆OBOG会

野球部OB会 12月29日

2回生小口さんと6回生から24回生までの約20人が集まりました。OB同士が2チームに分かれ、現役の頃のような真剣な眼差しで緊張感のあるゲームを楽しみました。久々に野球をしたという方もいらっしやいましたが、学生時代と変わらぬ素晴らしいプレーが連続でした。また、29日の夜は懇親会も行われました。宗先生や一桁回生の興味深い話を聞き、改めて岩田の歴史と繋がりの深さを学びました。来年以降も、ぜひまた開催したいと思ひます。(21回生：衛藤翔平)

バスケットボール部OB会 12月29日

毎年恒例のOB・OG戦を行いました。高

校卒業したての24回生から10回生までのOB・OG約30名(過去最多!)が参加しました。現役と合わせると、60名となり、紅白戦、OB対現役戦などを行い、大いに盛り上がりました。試合後はバスケ部恒例の全員での『大掃除』。1年間の感謝の気持ちを込めて、体育館内・玄関・女子更衣室・部室などを清掃し、2012年を締めくくりました。遠くは福岡や北九州から駆けつけ、差し入れまでしてくれる先輩、ゲームをしながらアドバイスをくれるOB・OG… 本当に多くの先輩達に支えられていることを改めて実感しました。感謝の気持ちを忘れずに活動していきます。(顧問：野田)



↑ 野球部OB 2012. 12. 29.

↓ バスケットボール部 2012. 12. 29.



テニス部は雨天中止、サッカー部は次号へ。

26回生WYSHプロジェクト

養護教諭 野村めぐみ

2学期末に26回生（高2）のWYSH授業が実施されました。

担当者：宮川教諭（5の3担任）

テーマ：「大切にする」

上記の通り、26回生WYSHプロジェクトを実施しました。岩田学園では平成22年よりWYSHプロジェクトに取り組んでおり、26回生は中3に引き続き2回目の授業となりました。「大切にする」というテーマに沿って実施した授業は、「命の誕生」のVTRを観たり、望まれた妊娠・中絶について真剣に考えて発表したり、保護者の方々より頂いた育児エピソードを紹介したりと盛りだくさんの内容となっており、とても充実したものになりました。

保護者の方々から頂いた育児エピソードを宮川教諭と野村めぐみ朗読させて頂いたのですが、どれも心温まるメッセージで多くの子どもたちが感動し涙するという場面もあり、私たち授業者も保護者の皆様からのメッセージと自分たちの気持ちが重なり思わず涙が出て朗読できなくなるという場面もあり、涙・涙の授業となりました。貴重なメッセージ、本当にありがとうございました。

～授業後の感想～

●命に感動しました。感謝の気持ちで胸がいっぱいであふれだしてきます。本当に本当に本当にたくさんの愛と優しさに包まれていると、ここまで思えたのは初めてです。人って、生まれてくるのって、命ってとっても暖かいです。生まれてきてよかったです。生んでくれてありがとう。育ててくれて、今生きてくれて、愛を、優しさをありがとう。ありがとうしか思いつかないです。

●普段から感謝してるつもりだけど、この授業をうけてもっと親に感謝した。めっちゃ感謝した。なきそうだから、もう書かない！！

●命ってすごいと思った！！親がこんなにも自分のことを大切に思ってくれていると思うとなんかとても嬉しかった！！自分もそうなりたかった。

●生命の神秘を感じる事ができてよかったです。とても感動しました。両親が自分に対してどれほどの愛情を注いしてくれたのかを知ることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。

●後半の出産・育児の話のときは泣きそうになった。さらにおやからのメッセージのところは泣いた。難しい話はよくわからないが、1つだけしっかりとわかった。友達・家族・自分に関わりがある人々を大切にしよう。親からのメッセージにありがとうという言葉がいっぱいあったがこっちからも言いたい。ありがとう！！

●自分が生まれてきたことのスゴさや大切さを気づかされ両親に感謝しようと思う。自分が妊娠・出産するわけではないけど、自分も相手も両方が望んだ妊娠・出産をして幸せな家庭を気づきたいと思いました。

●自分が生まれる前から両親に大切にされていたんだなあと思いました。正直涙腺が崩壊しかけました。お母さんって本当に大変な思いをしたんだなあ、今までいっぱい迷惑かけたなあと思うところがあります。本当に今を生きていられるのってキセキなんですね(^ ^)

●生まれてきたことは本当にすばらしいことなんだなあと改めて思った。両親のメッセージにも感動した。普段反抗することもあったり悪口を言ったりすることもあるけど、感謝の気持ちは忘れてはいけないと思った。生まれてきた時から大変な思いをたくさんしてきて私を育ててくれているので、私も手伝えることなどをして、もっと恩返ししなければいけないなと思った。

●出産することは想像以上に大変で、で

も、ビデオをみると、赤ちゃんが生まれてきた時のお母さんの顔はとても輝いてみえました。同じくらいの年の女の子が中絶を経験していることにとってもショックを受けました。体力的にも精神的にも辛いことで相談しづらいことなのにこんなにいるとは思いませんでした。

●のぞまれて生まれるのが一番幸せなんだと思いました。みんなの親からのメッセージはとても感動しました。あたしも将来こんなふうになりたいと思った！精子が卵子につくのがとても神秘的で感動しました。生んでくれてありがとう。

●最初はなつかしい宮川先生の授業から始まりました。やっぱり相変わらずエネルギーギッシュでとても面白かったです。性感染症の怖さも改めて知りました。妊娠・出産の喜びや感動も伝わってきました。自分たちの親からのメッセージは心にしみるもので、どれだけ自分を大切に思ってくれているのかがすごく伝わってきました。最後は涙でボロボロでした。これからはもっと自分と周りの人々を大切にしていこうと思いました。



APU立命館コース～後期プレゼンテーション大会(APU)～

8月から始まった後期APU講座の学習の成果の発表の場である後期プレゼンテーション大会が、1月23日（水）APUにて行われました。APUの学生であるTAのサポートのもと、高校1年生は初めての英語のプレゼンに、また高校2年生は”TPP”に関する日本語のディベートに挑戦してきました。参加した本校職員、保護者、APU学生、APU職員の前で大学生にも負けないような堂々たる、前期よりも成長した姿を見せてくれました。審査をされた教授の渡部郁之助先生は「様々な人に支えられて、高校生がこのようすばらしい発表ができたのに感動した」と講評を頂きました。

高1 最優秀：『The Trade of Music』
安東正広、大城奈々、佐藤百恵、津崎悠
優秀：『Fair Trade -the Truth not to Spread-』 小野カンナ、二宮未沙希、溝口碧、Maximilian Fismer

高2 最優秀：1班（否定派） 緒方征弘、高田三四郎、松屋優太郎、幸香澄
優秀：4班（肯定派） 宮崎万智子、江藤創平、利根比呂子、大戸星花、西田裕輝

Best Question賞 高1：片岡勇貴

高2：緒方征弘

Best Answer賞 高1：小野カンナ

審査員特別賞 高1：安東正広





学園だより

カウンセリングルームより

スクールカウンセラー 林 智一

思春期・青年期のメンタルヘルス —その2—

前回は笠原（1984）の作成した図1をもとに、強迫神経症、不登校、対人恐怖、思春期やせ症について見てきました。今回はその続きです。

自殺は、青年期後半の男女ともに見られます。年代別死因順位によると、15歳～24歳では「不慮の事故」について自殺が2位となっており、青年期におけるきわめて重要な問題です（榎本，2000）。マスコミ報道などの影響によって、ある人の自殺を引き金として連鎖的に自殺が続くという「群発自殺」を起こしやすいのも青年期の特徴です。「自殺予防教育」や「いのちの教育」が学校でも求められるところです。

無気力反応は、大学生に多いのでスチューデント・アパシーとも呼ばれます。学生の本業である学業（授業への出席、レポート提出、試験など）にいそしむことが難しい状態です。にもかかわらず、本人に悩んでいる様子は見られず、クラブ活動やアル

バイトなどには熱心で、人当たりの良い、やさしい感じの青年が多いのも特徴です。そのため、学校外で出会った人には、とても本人に問題があるように見えません。

統合失調症は、青年期に好発する精神病です。高校生年代の17歳くらいから気をつける必要があるのは、寡症状型といって、ゆっくり進行し、ひきこもりや感情面の活動低下・平板化など、社会生活能力の低下を引き起こすタイプです。一方、22歳くらいから好発する妄想型は、さまざまな妄想（誤った意味づけをしたり、現実とは異なることを信じ込んでしまったりして、修正が不可能な状態）が中心となります。妄想の多くは被害妄想（自分が他人から危害を加えられているという妄想）です。

うつ病は、病的な気分の落ち込みを主症状としており、物事を悲観的にしか受け取れなくなる病気です。また、食欲不振、不眠、身体の不調などをともないます。うつ状態とそう状態を繰り返す両相型と、うつ状態のみがあらわれる单相型に区別されま

す。うつ病でもっとも注意が必要なのは、自殺です。一見、逆説的に見えますが、治療を受けて快方に向かっている時期に自殺の危険が高まると言われているので要注意です。治療法としては薬物療法（お薬による治療）と休養が一番なのですが、うつ病には几帳面でまじめな性格の人が多く、なかなかゆっくり休むことができないのが問題です。

さて、これらの問題について、自分自身やまわりの身近な人にも起こりうる問題として、日頃から注意していただければさいわいです。心の病には偏見が強く、本人もご家族も、医療機関を利用することに抵抗のある場合が少なくありません。そのような際、冷静な判断のできる、周囲の人の助言や援助が有用となります。

~~~~~  
榎本博明 2000 青年の自殺 教育と医学, 48(5), 408-415.  
笠原 嘉 1984 アパシー・シンドローム—高学歴社会の青年心理— 岩波書店

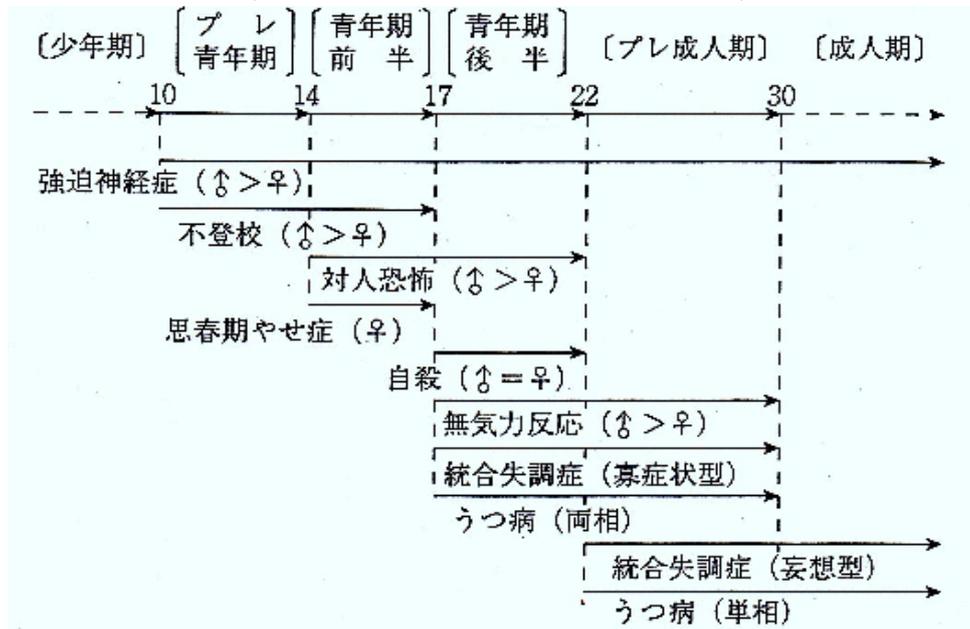


図 青年期各期の好発病像（笠原，1984を一部改変）  
（林 智一 2005 精神障害にまつわる理論と指導の実際 宮下一博・河野莊子（編著） 生きる力を育む生徒指導 北樹出版より引用）

## 生徒指導部より

高校指導連合会の会議で「変質者のよるわいせつ事案」が報告されています。

中央署からも注意を呼びかける連絡が入っていますので掲載します。冬も出没が予想されます、ご家庭でも注意を促してください。

**危険！**  
**わいせつ目的の犯罪が多発！**

女子学生を狙い、後方から近づき、身体を触ったり、抱きついたりするわいせつ事案が多発しています。この種の事案は強姦など凶悪事件に発展する可能性がありますので、被害にあわないために下記の点に注意してください。

### 被害にあわないための予防策

#### 1 狙われやすい対象と防御対策

##### ①一人歩き的女子学生

わいせつ目的の犯罪の発生は夕方以降の暗い時間帯に限らず、朝方や夕方の登下校の時間帯にも発生しており、特に一人で歩いている女子学生が狙われています。

**【対策】**友人知人などと複数で行動するように心がけ、一人で行動する際は遠回りでも人通りの多い道、街路灯のある明るい道を通りましょう。

##### ②携帯電話、音楽プレーヤー（イヤホン）を使用中の者

歩行中に携帯電話の操作に夢中になったり、イヤホンで音楽プレーヤー等使用したりしていると、男が近づいても気がつかないため、狙われやすい。

**【対策】**携帯電話、音楽プレーヤー等の機器の使用はしない。公共交通機関の乗降車時、徒歩、自転車の時でも、誰かが後ろをつけていないか、女子学生を監視している者がいないか時々周囲を見回し

## 生徒指導主任 阿部順三

気を配る。

### 2 その他の対応策

#### 【防犯機器を持ち歩く！】

犯人は騒がれるのを最も嫌がります。しかし、いざという時、日頃訓練をしておかないと大声は出せません。防犯ブザーなど防犯機器を持ち歩き、緊急の事態に備えましょう。



**不審な男を見かけた時は、**  
**すぐに「110番！！」**

~~~~~  
岩田生としての誇りを大切に、
胸を張って生きていこう！

1. 交通安全・公共マナーについて

- (1)もし、事故に遭ったり・起こしたりした場合はそれが小さな事故でも必ず警察に通報すること。相手の名前や連絡先、車の場合はナンバーや車種・色を確認すること。あわせて学校・担任にも連絡をして下さい。
- (2)自転車の二人乗り、並進、傘差し運転、信号無視等絶対にはいけません。また、自転車運転中に携帯電話の使用や画面の注視は禁止。大音量で音楽を聴くことやヘッドホンなどを使用しながらの運転も禁止です。違反者には5万円以下の罰金が科せられます。
- (3)自転車は防犯登録をし、必ず施錠（2ロック）するようにしましょう。
- (4)JR・バスの中、公共の施設ではマナーや施設の規則を守り、他の人に迷惑にならないようにしましょう。特に、JR・バスでは高齢者や身体の不自由な人には積極的に席を譲りましょう。
- (5)運転免許の取得は禁止です。また、無免許運転をしてはいけません。

2. インターネットなどについて

- (1)最近ではインターネットでの出会い系サ

イトなどの有害情報によるトラブルや犯罪にあふ被害が急増しています。パソコンや携帯電話などでのそのようなサイトの利用を禁止します。また、保護者の方は必ずフィルタリングをかけて下さい。また、かけたフィルタリングをはずすことがないようにお願いします。（詳しくは携帯電話各社にお問い合わせ下さい。）

- (2)インターネット上の掲示板・ブログ・ブログなどに他人に対して誹謗・中傷を決して書き込んではいけません。

3. 校外生活について

- (1)外出について

- ・外出の際は必ず家の人に行き先、用件、帰宅時間を知らせておくこと。
- ・外出の際の服装は制服または清楚なものとし、必ず身分証明書を携帯すること。
- ・深夜（午後11時～翌日の午前4時）の青少年の単独、もしくは集団での徘徊は「青少年のための環境浄化に関する条例」で補導対象となります。保護者同伴であっても許可されません。
- ・次にあげる場所は生活指導上好ましくないので保護者同伴でない限り立入を禁止します。
喫茶店・カラオケボックス、インターネットカフェ・ゲームセンター・ゲームコーナー（高額の金銭負担につながる遊技場）や、日没後の公園、寺社やその境内、墓地などは立入禁止です。

- (2)部活動・練習試合について

- ・普段の登校と同様、制服、体操服、部でそろえたもので登校し、貴重品に関しては必ず、部の顧問、担任に預ける事。
- ・自転車も許可されている生徒のみで、携帯電話は持ち込み禁止（許可者でも校内での使用は禁止）。他校への練習試合などでも同様です。

- (3)アルバイトは禁止です。

- (4)飲酒・喫煙・窃盗・万引・薬物乱用などの反社会的行動はしてはいけません。

寒くなって参りました。いよいよ受験シーズンの到来です。高3のみなさん！体調管理をしっかりと、絶好調で受験してください！応援してますよ。

↓ 樟友会 同窓会 2012. 12. 30.



寄付金募集のお知らせ

学校法人岩田学園

学校法人岩田学園 岩田中学校・高等学校は、明治33年(1900年)岩田英子先生が荷揚町に「大分裁縫伝習所」を創立したことから始まりました。その後、昭和59年3月に女子校としての幕を閉じるまでに約四万人の卒業生を輩出し、県下女子教育の一助として学園の使命を果たしてまいりました。

昭和50年に岩田英二(故人)が理事長へ就任し、時代のもともめる「教育」と「私学の役割」を考え『学校の組み替え』にとりかかりました。その結果、「学びたいものが広く集まる学校」であり、「自学自習」を基本とし、「個性を尊重し、自分で考え、自分のことばで語れる、創造力豊かな人間の育成」をめざし、昭和58年に県下初である中高一貫6年制男子校として「岩田中学校・高等学校」を開校いたしました。

1回生はわずか25名からのスタートでしたが、学園の建学精神にご賛同いただいた多くの皆様方のご支援、ご協力により、県下中高一貫校の先駆けとして、大いなる発展を遂げることができました。平成12年度(2000年)には学園創立100周年を迎え、翌年の平成13年度からは男女共学へと移行しました。

「社会に有為な人材の育成」の基本方針のもと、本校の卒業生は、医療・

法曹・IT・金融・建設・教育・サービス業等々と多方面で活躍しております。特に医療分野では、今後も大分県内の医療の一翼を担ってくれるものと各方面から大きな期待を寄せられています。

平成24年度に開校30周年を迎え、これからも学力だけではなく、「公正や正義」「人を思いやる心」を持ち、自主的で行動力のある人材を育てるという決意を新たにしております。

当学園は、大分市中心部を流れる大分川の河畔にあり、周囲を豊かなクスノキの樹林に囲まれ、校舎・生徒寮などは世界的に著名な建築家である磯崎新氏の設計によるものです。このような教育環境は、生徒の情操・感性に何らかのメッセージを与えていると考えております。この教育環境を維持し、更に発展させるため、寄付金を募集いたします。皆様方のご寄付により、生徒が毎日を過ごす学校の教育環境整備費及び学力定着・向上のため教育研究費の充実を計ります。

寄付金の使途

- (1)教育研究用の施設設備の整備及び取得費
- (2)教育研究に要する経常経費

何卒、学園の寄付金募集趣旨をご理解いただきまして、ご支援ご協力をいただけますようお願い申し上げます。

寄付金についての文書は、2月初旬にご郵送致します。また、今年度は『学校評価アンケート』を実施しますので、そのシートと返信用封筒も同封致します。

※返信用封筒は2種類ありますのでご確認ください。

<http://iwata.ed.jp/>

ホームページやブログでCheck!

能力の差は小さいが
努力の差は大きい

脚力尽くる時、山更に好し。
輝ける未来へ、全力でサポートします!



1月号

大分市岩田町1-1-1

学校法人岩田学園

電話 097(558)3007

Fax 097(556)8937

Email iwata@iwata.ed.jp



21世紀の有為な人材を育成する

岩田中学校・高等学校